

気 象 界 消 息

1. WMO 水理気象委員会第2会期開催

9月27日から10月20日までポーランド、ワルソーでWMO水理気象委員会第2会期が開催され、日本からは気象庁齊藤鍊一予報課長が出席する。なお同課長はその後ソ連水理気象局を視察する。

2. WMO第3回高層気象委員会・シノプチック気象委員会合同数値予報作業委員会開催

西独オッヘンバッハで10月1日から上記が開催され、日本からは予報部伊藤博電子計算室長が出席する。委員会は10月12日に終る。

3. 北海道に初霜

旭川地方気象台では9月17日、上越に霜があったと報じた。これは今年の初霜が昨年より5日早い。

4. 台風、日本をおそう。

今年最悪の台風が9月25日、日本を襲った。これは台風20号(Wilda)で宇和島で72m/secの強風を記録する等、大きな被害をだした。主な被災地は九州、四国だったが、本州でもかなり被害があった。

5. 富士山に初雪

9月17日、試験作動を開始したレーダーを取付けられた富士山に9月27日、初雪があった。これは平年に比べ21日おそく、昨年より58日おそいという。

6. 東京に秋冷

9月28日、東京では冷たい雨が降り、気温は15.4°Cに下り、1912年の9月の最低気温を破った。平年より8°Cも低い11月中旬の気温で人々をふるえ上らせた。

7. トルコの洪水

イスタンブールから、9月28日、洪水があり詳細不明だが少なくとも12人の死者があったと報じている。

8. 本州に地震

10月1日午後4時14分に関東・東北・中印一帯にかけかなりの地震があった。震災は茨城県南西60kmの海底で、折から来日中のオリンピック村の住人をおどろかした。被害はなかった。

9. インドの洪水

10月1日、ニューデリーからの報告では、マドラスの北方240マイル付近に大洪水があり、50人以上の死者をだしたとのこと、これは3日間で450ミリにも達する大雨のため多くの河川が氾濫したためである。

10. 南部ルイジアナにハリケーンが襲う。

ハリケーン・ヒルダが10月3日、ルイジアナ州南部を襲い、29人の死者をだした。これはヒルダに伴った少くとも三つのトルネードによるものである。

11. トルコの地震。

トルコ北西部に10月6日、地震が起り、死者30名、負傷52名の被害があった。

12. オランダ船、嵐で沈没。

オランダのドリスという3000トンの船が、イタリアのナポリ湾で、10月4日嵐に会い、沈没した。

13. ジャワ島にも洪水。

ジャワの東部に、10日間も豪雨が降りつづき、10月14日に洪水のため、32人が死んだといわれる。

14. ハリケーン、フロリダを襲う。

ハリケーン・イスベルが10月14日にフロリダ南東部を襲った。トルネードが各地の農場・都市を荒れ狂ったが死者はなかった模様。

15. ボリビアに山くずれ。

ボリビアのボゴタからの報告では、ボゴタの西300マイルのサラミナ地方に山くずれがあり、16人が死んだとのことである。

理 事 会 だ よ り

第4回常任理事会議事録

日 時： 昭和39年9月8日(火) 13.00~21.30

場 所： 気象庁第3会議室

出席者： 正野、北岡、今井、大田、須田、神山、桜庭、
岸保、吉野、荒井、各理事(順序不同)

議 題

1. 長期計画について

- イ. 委員会の「気象学長期計画」草案については、これを各方面で検討した結果、いろいろと異論があり代案なども提出されているので気象分野の統一された計画案とするには、時期尚早と考